

Japanese Laid-Open Patent Publication No. 06-319006

[0068] First, when an OCR sheet is transmitted from the other terminal (S51), the e-mail apparatus makes an analysis on the received OCR sheet (S52) and checks to see if 11 is filled in a column A (S53). If 11 indicating a request for relay is filled, the e-mail apparatus checks to see if a password for relay permission matches the previously registered password (S54). If both getting matched, the e-mail apparatus relays the e-mail data (S55) and if not, stops the process.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-319006
(43)Date of publication of application : 15.11.1994

(51)Int.Cl. H04N 1/00
H04N 1/44

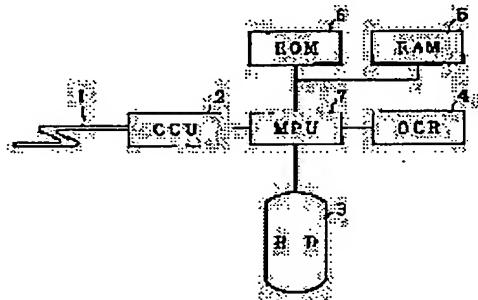
(21)Application number : 05-127977 (71)Applicant : CANON INC
(22)Date of filing : 30.04.1993 (72)Inventor : SAKAI YASUMASA

(54) COMMUNICATION DEVICE

(57)Abstract

PURPOSE: To prevent illegal use by setting a communication number in the automatic terminal number of an OCR sheet which is received for the 1st time and sending them back, and performing repeated transmission only when the communication number of an OCR sheet matches said communication number at the time of reception.

CONSTITUTION: When the OCR sheet in which no serial number is entered is received, a serial number counter in a RAM 5 counts up and the count value is written in a terminal table together with the terminal number entered in the OCR sheet. Then a document which follows the OCR sheet is stored on a hard disk device 3 and then a corresponding serial number is sent to the terminal number address. The terminal side once receiving the serial number transcribes it to an OCR sheet for repeating and sends the OCR sheet for repeating again. A mail device which has received the OCR sheet for repeating refers to the terminal table because the serial number is entered this time. When the corresponding terminal number is found and its serial number matches the number, the document stored on the hard disk device 3 is repeated and transmitted corresponding to the serial number.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-319006

(43)公開日 平成6年(1994)11月15日

(51)Int.Cl.⁵

H 0 4 N 1/00
1/44

識別記号

7232-5C
7232-5C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全13頁)

(21)出願番号

特願平5-127977

(22)出願日

平成5年(1993)4月30日

(71)出願人

000001007
キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72)発明者

坂井 康真
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

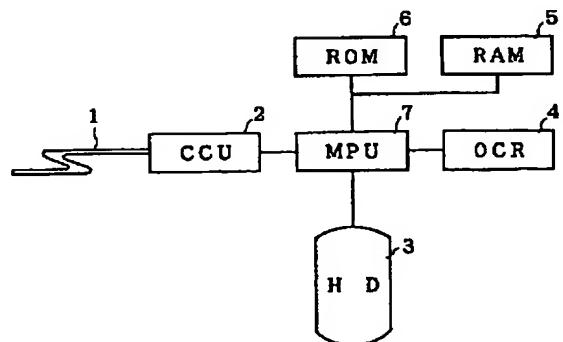
(74)代理人 弁理士 川久保 新一

(54)【発明の名称】 通信装置

(57)【要約】

【目的】 OCRシートを中継指示に用いて中継送信を行う場合に、その中継機能の不正な盗用を防止することができる通信装置を提供することを目的とする。

【構成】 最初に受信したOCRシートの自端末番号に通信番号を設定して返送し、この通信番号を記入したOCRシートを再度受信して通信番号の照合を行い、一致する場合だけ中継送信を行う。また、中継された原稿の一部を後で参照できるようにする。さらに、中継結果をレポートにより後で参照できるようにする。さらに、予め中継サービスを受けることができる外線宛先番号を登録しておき、他の宛先へは中継できなくなる。また、パスワードを一定の条件で更新していく。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 接続された端末から送られてくるOCRシートの内容を解析し、指定された宛先に中継送信する通信装置であって、

上記OCRシートは、自端末番号と通信番号の記入欄を有し；上記自端末番号を記入したOCRシートを受信すると、任意の通信番号を採択して記憶するとともに、その通信番号を上記OCRシートに記入された自端末番号へ送信する通信番号設定手段と；上記通信番号を受け取った端末側で当該通信番号をOCRシートに転記して再度送信することにより、そのOCRシートを受信して、その通信番号と上記記憶してある通信番号との比較を行う通信番号比較手段と；この比較の結果、通信番号が一致したときにだけ中継送信を行う中継制御手段と；を有することを特徴とする通信装置。

【請求項2】 接続された端末から送られてくるOCRシートの内容を解析して宛先を読み取り、この宛先に中継送信する通信装置であって、

上記OCRシートに記入されたユーザ番号毎に中継原稿の一部を中継終了後にも蓄積する原稿蓄積手段と；この蓄積手段に蓄積された原稿をユーザ番号毎に指定された端末に送信する送信制御手段と；を有することを特徴とする通信装置。

【請求項3】 接続された端末から送られてくるOCRシートの内容を解析して宛先を読み取り、この宛先に中継送信する通信装置であって、ユーザ番号毎に中継宛先番号、中継送信枚数を登録する登録手段と；一定期間毎に、上記ユーザ番号で登録された端末宛に中継宛先番号、中継送信枚数を記載したレポートを送信するレポート送信手段と；を有することを特徴とする通信装置。

【請求項4】 接続された端末から送られてくるOCRシートの内容を解析し、指定された宛先に中継送信する通信装置であって、

予め外線宛先番号を登録する登録手段と；外線中継要求が記載されたOCRシートを受信したときに、登録済の宛先番号のみに対して、中継送信を行う中継制御手段と；を有することを特徴とする通信装置。

【請求項5】 接続された端末から送られてくるOCRシートの内容を解析し、指定された宛先に中継送信する通信装置であって、

上記OCRシートに中継送信許可用のパスワードを設け；OCRシートから読み取ったパスワードと予め登録したパスワードとを比較する比較手段と；この比較の結果、パスワードが一致したときだけ、中継送信を行う中継制御手段と；一定の法則により、登録されたパスワードを変更するパスワード変更制御手段と；を有することを特徴とする通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、中継機能を有するファクシミリ装置やメール装置等の通信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、OCRシートを中継指示に用いて中継送信を行う機能を有するメール装置が提案されている。

【0003】このメール装置においては、他の端末から原稿送信に先立って送信されてくるOCRシートの内容を解析し、このOCRシートの所定位置に記載されている宛先を読み取り、この宛先に、その後送られてくる原稿を中継送信するようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このようなメール装置において、OCRシートとメール装置へのアクセス番号が第3者に漏れてしまうと、第3者が不正に中継を行うことができ、正規の利用者にとって損害となる問題がある。

【0005】本発明は、OCRシートを中継指示に用いて中継送信を行う場合に、その機能の不正な盗用を防止することができる通信装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、接続された端末から送られてくるOCRシートの内容を解析し、指定された宛先に中継送信する通信装置であって、上記OCRシートは、自端末番号と通信番号の記入欄を有し、上記自端末番号を記入したOCRシートを受信すると、任意の通信番号を採択して記憶するとともに、その通信番号を上記OCRシートに記入された自端末番号へ送信する通信番号設定手段と、上記通信番号を受け取った端末側で当該通信番号をOCRシートに転記して再度送信することにより、そのOCRシートを受信して、その通信番号と上記記憶してある通信番号との比較を行う通信番号比較手段と、この比較の結果、通信番号が一致したときにだけ中継送信を行う中継制御手段とを有することを特徴とする。

【0007】

【実施例】図1は、本発明の第1実施例を示すブロック図である。

【0008】この実施例のメール装置は、装置全体の制御をするMPU7と、このMPU7の制御プログラムを格納したROM6と、上記MPU7のワークエリアとして用いられるとともに端末テーブルや通番カウンタ等を格納したRAM5と、OCRシート上の文字を認識するOCR装置4と、中継原稿や各種データを記憶するハードディスク装置3と、通信回線1の接続制御や通信用データの各種信号処理等を行う通信制御装置(CCU)2とを有する。

【0009】図2は、本実施例で用いる中継用OCRシートの一例を示す説明図である。

【0010】まず、記入欄Aには、中継用であることを示すコード11が記入されており、次の記入欄Bには、自端末番号の37576068が記入されている。また、記入欄Cは、通番を記入するための欄であり、最初に原稿を送信する時には、記入しない。さらに、最後の記入欄Dには、中継宛先番号54827234が記入されている。

【0011】図3は、RAM5内の端末テーブルを示す説明図である。図示のように、この端末テーブルは、端末番号と通番とを管理している。

【0012】図4は、この実施例におけるメール装置が中継用OCRシートを受信した場合の動作を示すフローチャートである。

【0013】まず、他の端末（図示せず）からOCRシートが送られてくると（S1）、このOCRシートの内容を解析し（S2）、通番が記入されているかどうかを判断する（S3）。

【0014】ここで通番が記入されていない場合には、RAM5内の通番カウンタをカウントアップし（S4）、それをOCRシートに記入されている端末番号とともに、端末テーブルに書き込む（S5）。

【0015】次に、このOCRシートに続く原稿を受信して、ハードディスク装置3に蓄積することにより、受信動作を終了した後、端末テーブルを参照して、ここに登録されている端末番号宛に、対応する通番を送信する（S6）。

【0016】端末側で通番を受信すると、それを中継用OCRシートの記入欄Cに転記し、再度その中継用OCRシートを送信する。

【0017】この中継用OCRシートを受信したメール装置は、今度は通番の欄が記入されているので、S3において、通番記入有りと判断し、S7に進んで、端末テーブルを参照し、その端末番号の有無を判断する（S8）。そして、該当する端末番号がある場合には、その通番が一致するかどうか判断し（S9）、一致する場合には、その通番に対応してハードディスク装置3に蓄積した原稿を中継送信する（S10）。

【0018】なお、以上の第1実施例では、最初の中継用OCRシートの送信において、原稿を送信しているが、最初は中継用OCRシートだけを送信して、後の中継用OCRシートの送信時に原稿を送信するようにしてもよい。

【0019】次に、本発明の第2実施例について説明する。なお、メール装置の構成は、上記第1実施例（図1）と共通であるので、重複する説明は省略し、同一符号を用いて説明する。

【0020】この第2実施例は、中継原稿の1ページ目を中継終了後も蓄積し続けるとともに、この1ページ目の原稿を指定した端末に送信する機能を設けることにより、ユーザが中継原稿の内容を確認できるようにし、そ

の不正利用を監視できるようにしたものである。

【0021】図5は、本実施例で用いる中継用OCRシートの一例を示す説明図である。

【0022】まず、記入欄Aには、中継用であることを示すコード11が記入されており、次の記入欄Bには、ユーザ番号の25067が記入されている。また、記入欄Cは、中継宛先番号37576068が記入されている。

【0023】図6は、上記RAM5内に作成されるユーザ番号に対応するファイル管理テーブルを示す説明図である。

【0024】図示のように、このファイル管理テーブルは、ユーザ番号と、ファイルリストへのポインタと、ファイルリストとから構成されている。ここでファイルリストは、ハードディスク装置3へ蓄積されたページを示すファイル名となるものである。

【0025】図7は、本実施例におけるメール装置が中継用OCRシートを受信した場合の動作を示すフローチャートである。

【0026】まず、他の端末から中継用OCRシートが送られてくると（S1）、このOCRシートの内容を解析し（S12）、ユーザ番号が得られると、それによりファイル管理テーブルのエントリが作成される（S13）。

【0027】そして、OCRシートの受信に続き、原稿の受信を行い（S14）、1ページ目は新たにファイルリストに追加されたファイル名でハードディスク装置3へ蓄積する（S15、S16）。

【0028】また、この1ページ目は、以降のページ同様に、ハードディスク装置3へ原稿ファイルとして蓄積する（S17）。そして、この蓄積動作を最終ページまで繰り返し行う（S18）。

【0029】図8は、ユーザ番号毎の中継原稿1ページ目出力用のOCRシートの一例を示す説明図である。

【0030】記入欄Aは、その機能コード99を記入するもので、記入欄Bは、ユーザ番号25067を記入するものである。

【0031】図9は、中継原稿1ページ目出力時の動作を示すフローチャートである。

【0032】まず、他の端末からOCRシートが送られてくると（S21）、このOCRシートの内容を解析し（S22）、中継原稿1ページ目の出力依頼であることが分かると、セッション反転を行う（S23）。そして、OCRシートより得られたユーザ番号でファイル管理テーブルを参照し（S24）、ハードディスク装置3から該当する原稿の1ページ目を読み出して送信する動作を、ファイルリストエンドになるまで繰り返す（S25、S26）。

【0033】なお、以上の第2実施例において、ハードディスク装置3への1ページ目の蓄積は、原稿ファイル

とは別に行っているが、短時間であれば、原稿ファイルそのものを一定期間消さずに保持するようにしてもよい。

【0034】また、原稿1ページ目の出力は、OCRシートを送った端末において、同一セッション内で行われるが、OCRシートに端末番号を指定することにより、他の端末に別セッションにて送るように行くことができる。

【0035】次に、本発明の第3実施例について説明する。なお、メール装置の構成は、上記第1実施例(図1)と共通であるので、重複する説明は省略し、同一符号を用いて説明する。

【0036】この第3実施例は、ユーザ番号毎に中継宛先番号および中継送信枚数を登録する機能を設けるとともに、ユーザ番号で登録された端末宛に中継宛先番号および中継送信枚数を記載したレポートを送信する機能を設けることにより、ユーザが中継原稿の内容を確認できるようにし、その不正利用を監視できるようにしたものである。

【0037】図10は、本実施例において、RAM5上に設けられた中継管理テーブルおよび中継情報テーブルを示す説明図である。

【0038】図示のように、この中継管理テーブルは、ユーザ番号、端末番号、および中継情報テーブルへのポイントよりなるものである。また、中継情報テーブルは、中継宛先番号および中継送信枚数からなる。

【0039】図11は、本実施例の中継用OCRシートの一例を示す説明図である。

【0040】まず、記入欄Aには、中継用であることを示すコード11が記入されており、次の記入欄Bには、ユーザ番号の25067が記入されている。また、記入欄Cには、中継宛先番号37576068が記入され、記入欄Dには、中継送信枚数10が記入されている。

【0041】図12は、この実施例におけるメール装置が中継用OCRシートを受信した場合の動作を示すフローチャートである。

【0042】まず、他の端末から中継用OCRシートが送られてくると(S31)、このOCRシートの内容を解析し(S32)、この解析により得られる中継宛先番号および中継送信枚数をユーザ番号にしたがって、中継情報テーブルに登録し(S33)、中継を行う(S34)。

【0043】図13は、この実施例において、予め設定された時刻になると起動する中継結果レポート作成、送信動作を示すフローチャートである。

【0044】まず、テーブルエンドでないことを確認し(S35)、中継管理テーブルおよび中継情報テーブルの内容をユーザ番号毎に読み出して、図14に示すような、中継結果レポートとして作成し(S36)、このレポートを中継管理テーブルに登録されている端末番号宛

に送信する(S37)。

【0045】なお、以上の第3実施例において、中継情報として、中継宛先番号と枚数に加えて、受信時刻と中継送信時刻とを読み取って蓄積するようにしてもよい。この場合、受信時刻と中継送信時刻とが中継結果レポートに記載されることから、より細かい情報がユーザに提供できる。

【0046】また、中継情報の枚数は、OCRシートの解析結果で得られた値を登録しているが、通信プロトコル上のCDPBをカウントして、この結果を登録するようにしてもよい。

【0047】次に、本発明の第4実施例について説明する。なお、メール装置の構成は、上記第1実施例(図1)と共通であるので、重複する説明は省略し、同一符号を用いて説明する。

【0048】この第4実施例は、予め外線宛先番号を登録する機能を設けるとともに、外線への中継要求が記入されたOCRシートを受信したときに、登録済の宛先番号と比較する機能を設け、登録済の宛先番号のみに対して、中継送信を行うようにしたものである。

【0049】図15は、この実施例で用いる外線宛先番号登録用OCRシートを示す説明図である。

【0050】まず、記入欄Aには、外線宛先番号の登録用であることを示すコード99が記入されており、次の記入欄B、Cには、外線宛先番号37576068、54827234が記入されている。なお、記入欄Dも外線宛先番号の記入用であるが、ここでは空欄となっている。

【0051】図16は、RAM5上の外線宛先テーブルを示す説明図である。図示のように、ここでは上記登録用OCRシートに記入された2つの外線宛先番号37576068、54827234が登録されている。

【0052】図17は、この実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。

【0053】記入欄Aには、中継用であることを示すコード11が記入されており、次の記入欄Bには、中継宛先番号54827234が記入されている。

【0054】図18は、この実施例におけるメール装置が中継用OCRシートを受信した場合の動作を示すフローチャートである。

【0055】まず、他の端末からOCRシートが送られてくると(S41)、このOCRシートの内容を解析し(S42)、記入欄Aに99が記入されているかどうかを判断する(S43)。

【0056】そして、99が記入されている場合には、外線宛先番号登録依頼であるので、RAM5上の外線宛先テーブルに、OCRシートから得た外線宛先番号を登録する(S44)。

【0057】また、記入欄Aに99が記入されていない場合には、この記入欄Aに11が記入されているかどうか

かを判断する (S 45)。そして、11も記入されていない場合には、その他の処理を行う (S 46)。

【0058】また、11が記入されている場合は、中継依頼があるので、その中継宛先番号が外線宛先テーブルにあるかどうかのチェックを行い (S 47、S 48)、ある場合には、中継送信を行うが (S 49)、ない場合には、そのまま終了する。

【0059】このようにして、予め登録した宛先だけに中継送信を許可し、不正使用を防止する。

【0060】次に、本発明の第5実施例について説明する。

【0061】図19は、この第5実施例の構成を示すブロック図である。図示のように、このメール装置は、上記第1実施例 (図1) で説明した構成に加えて、時計 (CLOCK) 8を設けたものである。なお、その他の構成は、上記第1実施例と共通であるので、重複する説明は省略し、同一符号を用いて説明する。

【0062】この第5実施例は、OCRシートに中継許可用のパスワードを設け、予め登録してあったパスワードとの比較により、両者が一致したときにだけ、中継を行うものである。また、パスワードは、一定の規則により更新していくことで、その盗用を防ぐようしている。

【0063】図20は、本実施例で用いる中継許可用パスワードの登録用OCRシートの一例を示す説明図である。

【0064】まず、記入欄Aには、中継許可用のパスワードを登録するためのOCRシートであることを示すコード99が記入されており、次の記入欄Bには、登録するパスワード1234が記入されている。

【0065】図21は、本実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。

【0066】記入欄Aには、中継用であることを示すコード11が記入されており、次の記入欄Bには、パスワード1234が記入されている。さらに、次の記入欄Cには、中継宛先番号37576068が記入されている。

【0067】図22は、この実施例におけるメール装置がOCRシートを受信した場合の動作を示すフローチャートである。

【0068】まず、他の端末からOCRシートが送られてくると (S 51)、このOCRシートの内容を解析し (S 52)、記入欄Aに11が記入されているかどうかを判断する (S 53)。そして、11が記入されている場合は、中継依頼があるので、その中継許可用パスワードが予め登録されたパスワードと一致するかどうかのチェックを行い (S 54)、一致する場合には、中継送信を行うが (S 55)、ない場合には、そのまま終了する。

【0069】また、記入欄Aに11が記入されていない

場合は、記入欄Aに99が記入されているかどうかを判断し (S 56)、99も記入されていない場合は、その他の処理を行う (S 58)。

【0070】また、99が記入されている場合には、記入欄Bの中継許可用パスワードを登録する処理を行う (S 57)。

【0071】図23は、この実施例において、日付けに応じて登録済の中継許可用パスワードを更新する処理を示すフローチャートである。

【0072】まず、日付けが代わると、登録済のパスワードを読み出し (S 61)、その値に日付けを加算し (S 62)、それを新パスワードとしてRAM5に再登録する (S 63)。例えば、最初に登録したパスワードが1234で、9月2日になった場合には、0902を加算し、2136が新パスワードとして登録される。

【0073】このようにして、パスワードを変更していくことにより、パスワードの漏洩による盗用を防止することができる。

【0074】なお、パスワードを更新する法則として、例えば日付けを加算する代わりに減算したり、その他の方法を用いてもよい。また、上記実施例の図23に示す処理では、前日に更新して再登録したパスワードに、次の日さらに日付けを加算して更新するような動作となっているが、このように累積的な加算を行うのではなく、常に初期登録値 (上記の例では1234) に対して変更をかけるようにしてもよい。

【0075】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の請求項1によれば、最初に受信したOCRシートの自端末番号に通信番号を設定して返送し、この通信番号を記入したOCRシートを再度受信して通信番号の照合を行い、一致する場合だけ中継送信を行うことから、そのOCRシートによる中継サービスを1回に限定することができる。したがって、もし記入済のOCRシートが第3者に渡つても盗用することはできなくなり、不正な使用を防止できる効果がある。

【0076】また、本発明の請求項2によれば、中継された原稿の一部を後で参照することができるので、不正な使用を監視することができる効果がある。

【0077】また、本発明の請求項3によれば、中継結果をレポートにより後で参照することができるので、不正な使用を監視することができる効果がある。

【0078】また、本発明の請求項4によれば、予め中継サービスを受けることができる外線宛先番号を登録しておくことにより、他の宛先へは中継できなくなり、不正な使用を防止できる効果がある。

【0079】また、本発明の請求項5によれば、パスワードを一定の条件で更新していくことにより、パスワードの漏洩による被害を抑えることができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例を示すブロック図である。
 【図2】上記第1実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。
 【図3】上記第1実施例における端末テーブルを示す説明図である。
 【図4】上記第1実施例における中継用OCRシート受信時の動作を示すフローチャートである。
 【図5】本発明の第2実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。
 【図6】上記第2実施例におけるファイル管理テーブルを示す説明図である。
 【図7】上記第2実施例における中継用OCRシート受信時の動作を示すフローチャートである。
 【図8】上記第2実施例における中継原稿1ページ目出力用のOCRシートを示す説明図である。
 【図9】上記第2実施例における中継原稿1ページ目出力時の動作を示すフローチャートである。
 【図10】本発明の第3実施例における中継管理テーブルおよび中継情報テーブルを示す説明図である。
 【図11】上記第3実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。
 【図12】上記第3実施例における中継用OCRシート受信時の動作を示すフローチャートである。
 【図13】上記第3実施例における中継結果レポートの作成、送信動作を示すフローチャートである。
 【図14】上記第3実施例における中継結果レポートを示す説明図である。

【図15】本発明の第4実施例で用いる外線宛先番号登録用OCRシートを示す説明図である。

【図16】上記第4実施例における外線宛先テーブルを示す説明図である。

【図17】上記第4実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。

【図18】上記第4実施例における中継用OCRシート受信時の動作を示すフローチャートである。

【図19】本発明の第5実施例の構成を示すブロック図である。

【図20】上記第5実施例で用いる中継許可用パスワードの登録用OCRシートを示す説明図である。

【図21】上記第5実施例で用いる中継用OCRシートを示す説明図である。

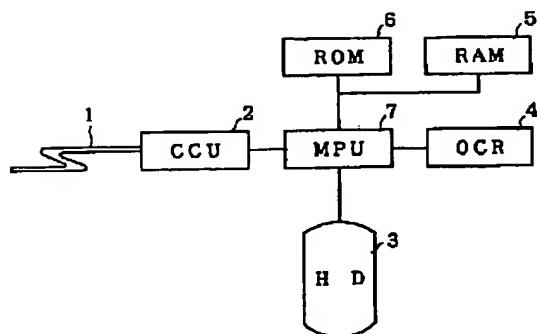
【図22】上記第5実施例におけるOCRシート受信時の動作を示すフローチャートである。

【図23】上記第5実施例における中継許可用パスワードの更新処理を示すフローチャートである。

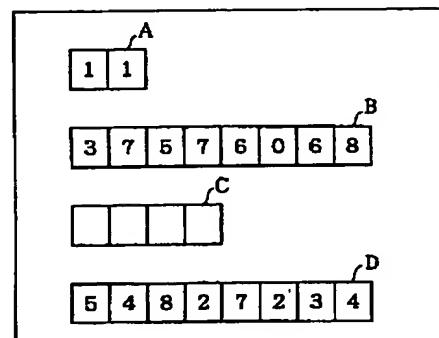
【符号の説明】

- 1…通信回線、
- 2…通信制御装置、
- 3…ハードディスク装置、
- 4…OCR装置、
- 5…RAM、
- 6…ROM、
- 7…MPU、
- 8…時計。

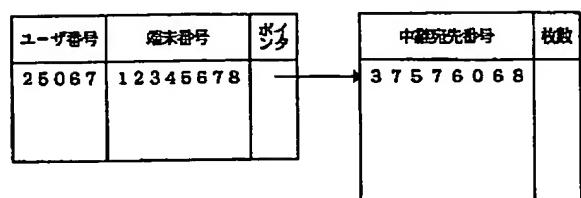
【図1】



【図2】



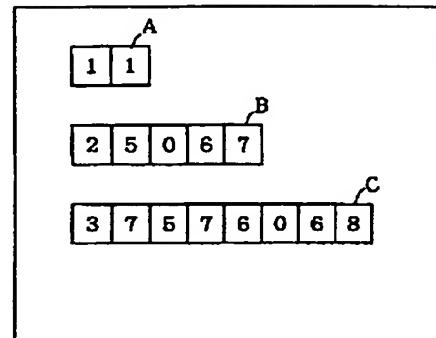
【図10】



【図3】

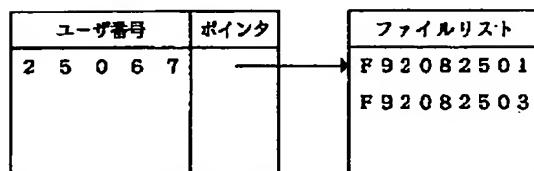
端末番号	通番
3 7 5 7 6 0 6 8	1 2 3 4

【図5】



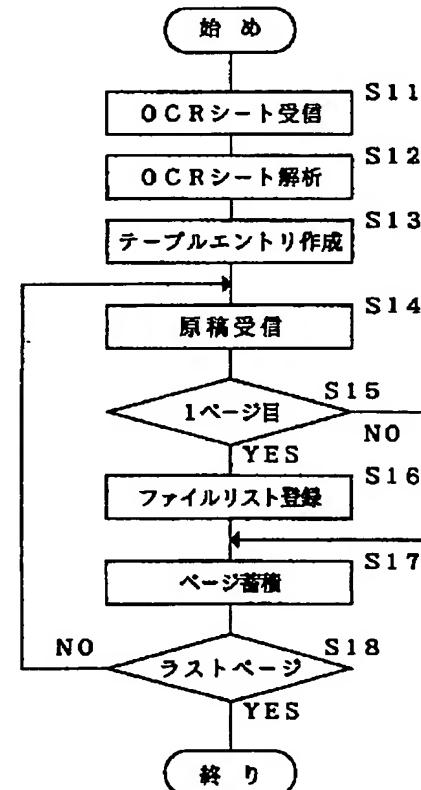
K2505

【図6】



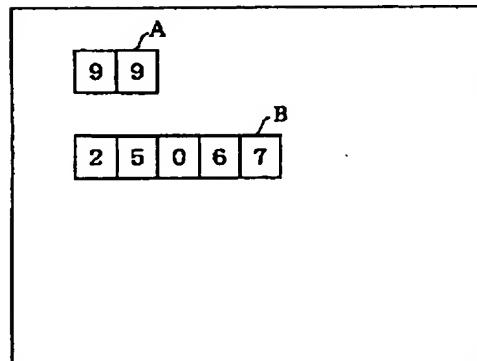
K2505

【図7】



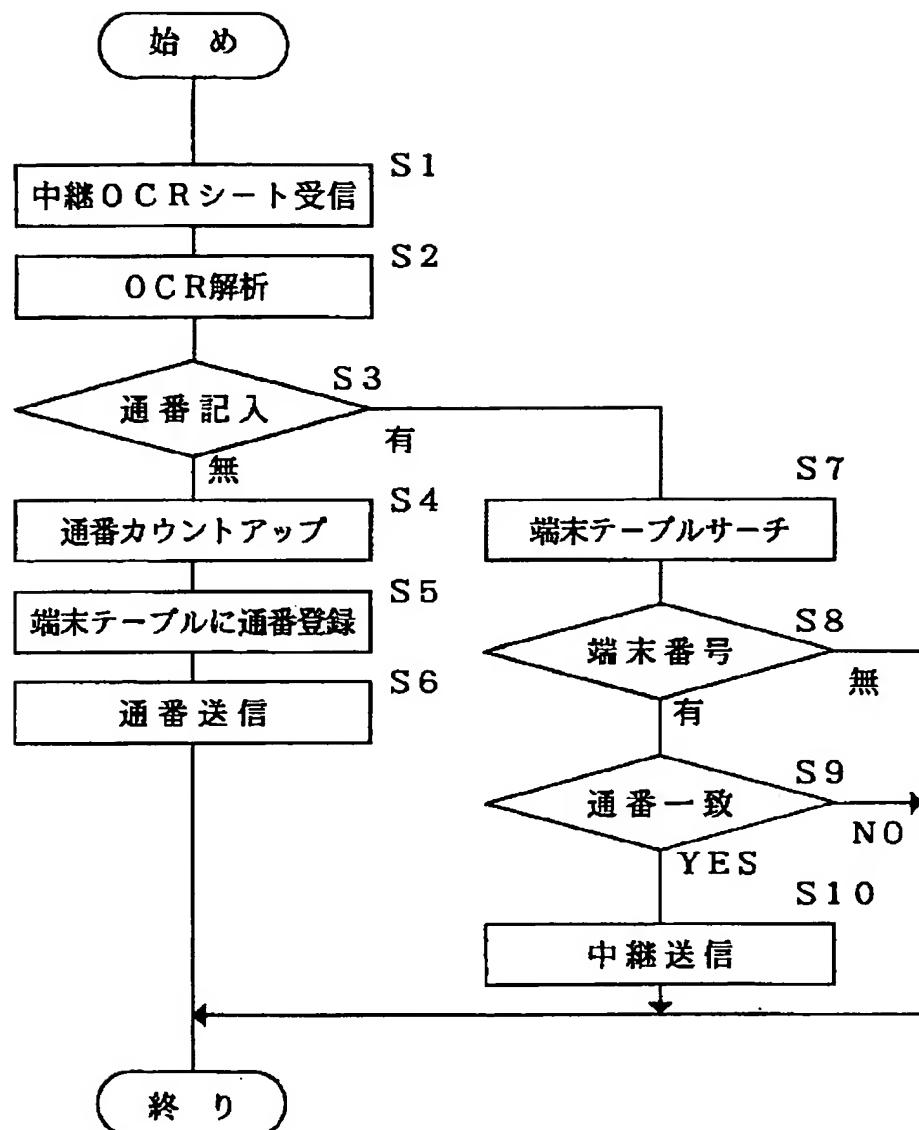
K2505

【図8】



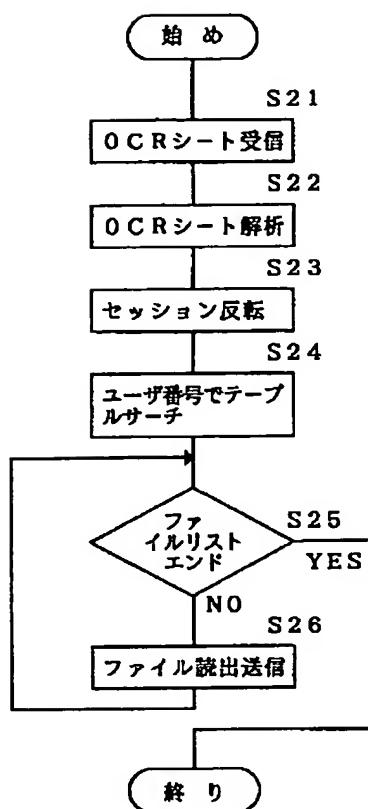
K2505

【図4】



K2505

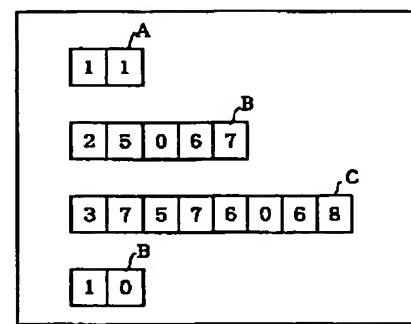
【図9】



【図14】

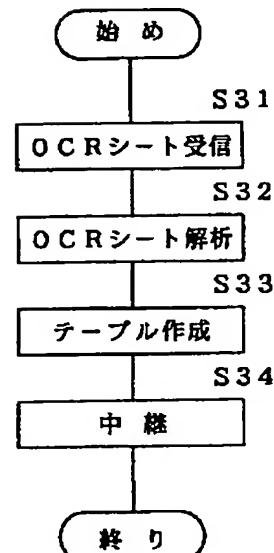
中継結果レポート 92/8/25	
ユーザ番号	25067
中継宛先番号	枚数
37576068	10
54827234	20

【図11】



K2505

【図12】

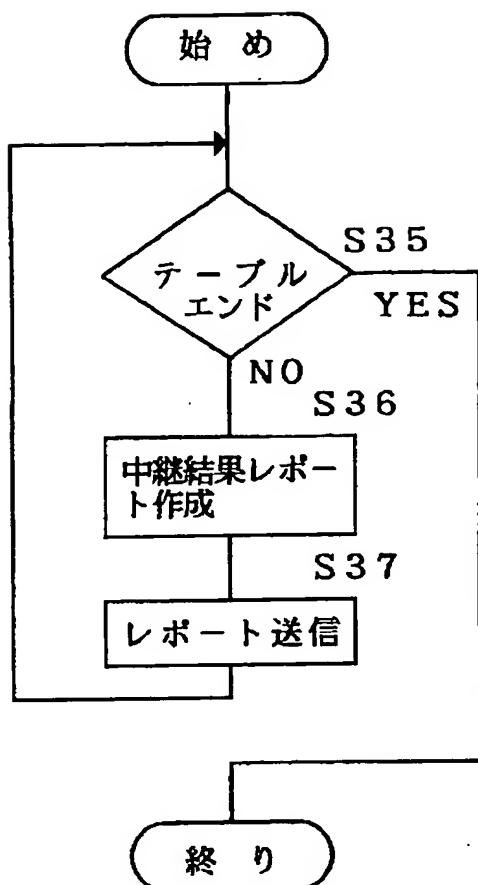


K2506

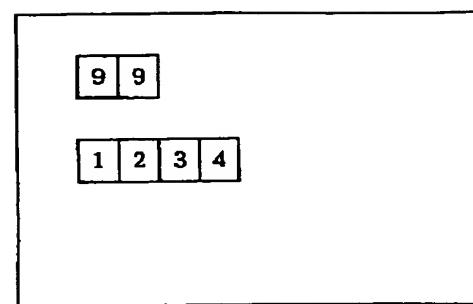
【図16】

外線宛先番号							
3	7	5	7	6	0	6	8
5	4	8	2	7	2	3	4

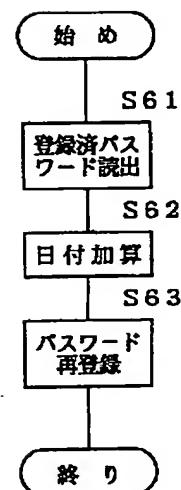
【図13】



【図20】



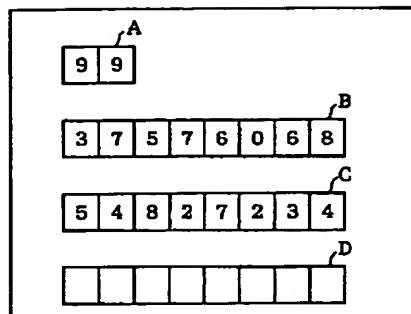
【図23】



K2505

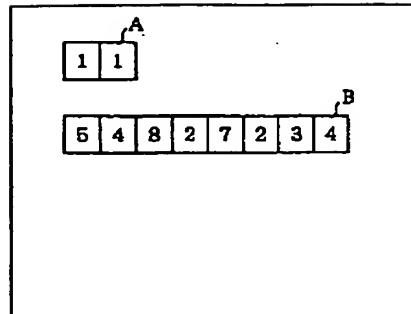
K2505

【図15】



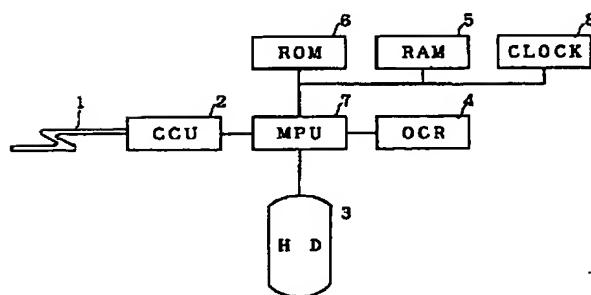
K2505

【図17】



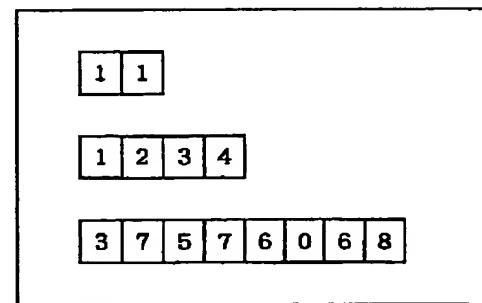
K2505

【図19】



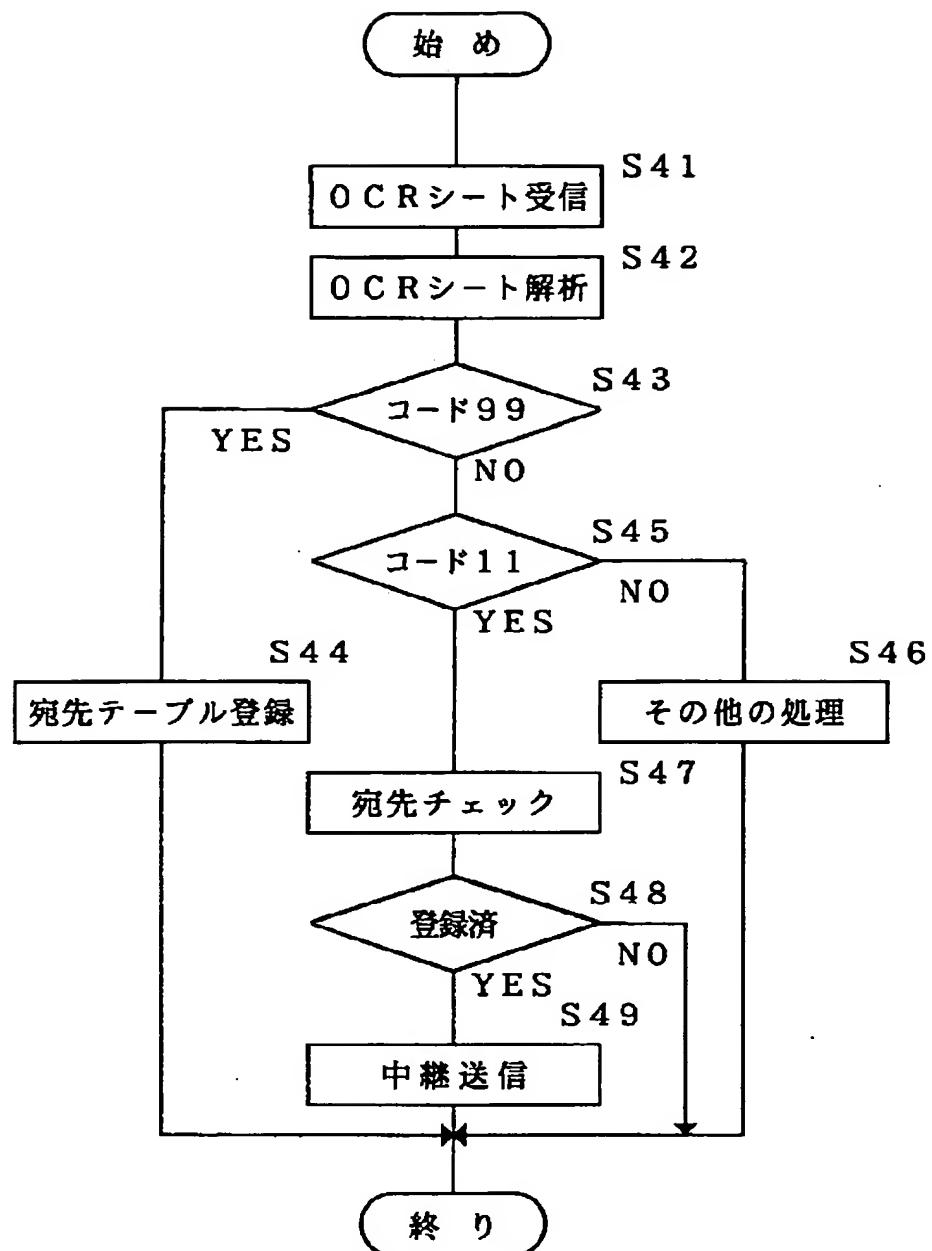
K2505

【図21】



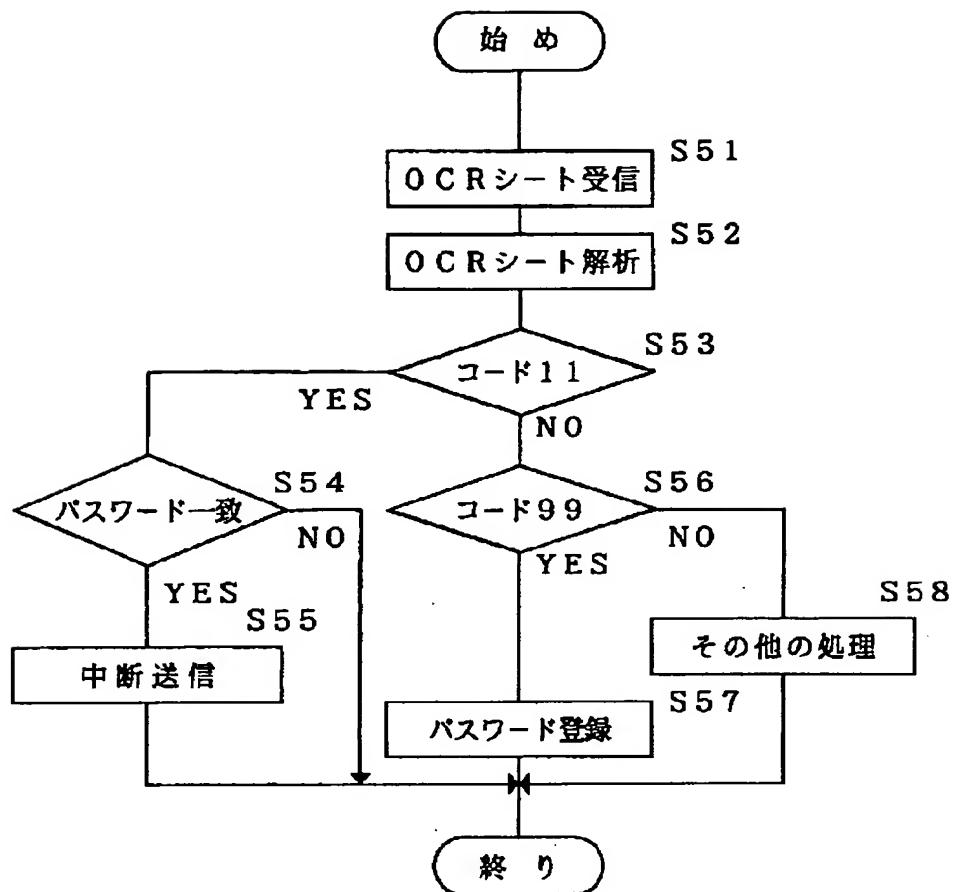
K2505

【図18】



K2505

[図22]



K2505